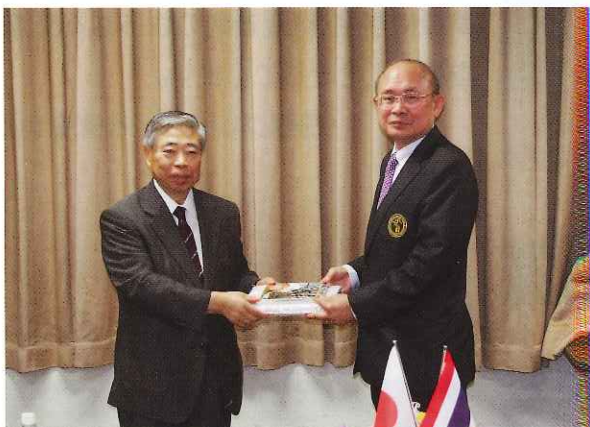




国際交流活性化の推進

チェンマイ大学の訪問団が長尾学長を表敬訪問

平成25年10月30日(水)、タイのチェンマイ大学のNiwes Nantachit学長他6名の訪問団が、長尾学長を表敬訪問されました。チェンマイ大学はタイ北部に位置し、1990年に農学部が中心となって学術交流協定を締結して以来活発な学術・研究者交流が展開されており、本学の海外教育研究交流拠点の1つです。



記念品贈呈

本学からは長尾学長他6名が出席し、更なる学生・研究者の交流の発展や、2014年開催予定の「第5回チェンマイ大学及び香川大学との合同シンポジウム」の計画などについて議論し、幅広い意見交換が行われました。

チェンマイ大学とは今後様々な分野でより一層の交流が期待されます。

(国際グループ 福家徹也)



集合写真

ブルネイ・ダルサラーム大学との研究ミーティング

平成25年10月8日(火)にブルネイ・ダルサラーム大学から Professor Tong Chee Kiong (特別学術顧問)と、Associate Professor Haji Noor Azam bin OKMB haji Othman (人文社会学部学部長)が来学されました。

ミーティングでは、本学からはロン留学生センター長・インターナショナルオフィス副オフィス長、医学部徳田教授、地域マネジメント研究科塚田教授、教育学部高木教授、インターナショナルオフィス細田講師、高水講師、塩井講師が出席し、今年度より採択されている医学部徳田教授の日本学術振興会(JSPS)二国間交流事業の今後の実施計画などを中心に意見交換を行いました。



記念品贈呈の様子

ブルネイ・ダルサラーム大学とは、本学医学部を中心として平成18年から教職員・学生の交流を行っている本学の海外教育研究交流拠点校の1つです。平成24年12月には学術交流に関する覚え書きに関する実施細則を調印しており、今回のミーティングを契機に学生・研究者間のさらなる交流を行うこととしています。

(国際グループ 福家徹也)



ミーティングの様子

在ブルネイ大使を招いての国際セミナー

平成25年12月17日(火)に香川大学・ブルネイ間共同研究「糖尿病・肥満の比較研究と国際貢献」第2回国際セミナーを幸町キャンパス研究交流棟5階研究者交流スペースで開催しました。本学教職員・学生や香川県関係者など合わせて約60人が参加しました。

第1部では、長尾学長の開会挨拶の後、在ブルネイ日本国大使館特命全権大使 菅沼 健一氏から「我が国の対ASEAN外交と日ブルネイ関係」と題した基調講演を行っていただきました。質疑応答では、学生からブルネイ・ダルサラームの文化や生活に関する質問などがあり、活発な意見交換が行われました。

第2部では、二国間共同研究で行われている研究プロジェクトについて、各担当者が研究内容や進行状況等について意見交換を行いました。また、各プロジェクトの担当教員より、ブルネイで実施を計画している調査や研究内容について発表が行われた後、菅沼大使からアドバイスをいただきました。

本セミナーは、医学部徳田教授の「ブルネイ・ダルサラーム国と日本国における糖尿病及び肥満の比較研究を通じた国際貢献」が日本学術振興会の二国間交流事業共同研究オープンパートナーシップ事業に採択されたことに伴い開催したものです。

(国際グループ 福家徹也)



菅沼大使の講演



質疑応答の様子



国際研究支援センター研究会シリーズ第1回

平成25年11月20日(水)、平成25年度国際研究支援センター研究会シリーズ第1回インターナショナルオフィスFD「外国人家事労働者の雇用と家族関係の変容—アラブ首長国連邦の経験から—」を開催しました。当日は幸町キャンパス研究交流棟5階研究者交流スペースをメイン会場に、医学部、農学部、工学部を遠隔会議システムで結び、本学教職員計17名の参加がありました。

研究会では、インターナショナルオフィス徳田講師から趣旨説明、ロン留学生センター長の開会の挨拶の後、アラブ首長国連邦ザード大学助教リマ・サバン氏から講演がありました。講演ではアラブ首長国連邦の経済発展と移民の流入に伴う家事労働者の増加と、伝統的な家族制度からの変容についての説明がありました。講演後のディスカッションでは、日本とアラブ首長国連邦の家族制度の違い等について活発な議論が行われました。サバン氏は、平成25年度日本学術振興会外国人招へい研究者として来日しました。

(国際グループ 福家徹也)



講演するサバン氏



研究会の様子

学生対象行事

農学部ショートステイプログラムにおける日本語教育

平成25年8月19日(月)から9月20日(金)までの約1ヶ月間、タイ・インドネシア・中国・アメリカ・ブラジル・トルコから計22人の学生が農学部で研修を行い、その間、国際オフィス塩井講師と高水講師が計5回の日本語授業を担当しました。学生は皆日本語初心者でしたが、基本的な会話や読み書き等を学んだ後、学外実習(買い物)やホームステイ等で習った日本語を実際に使い、日本人とのコミュニケーションを楽しんだようです。これが今後の日本語学習や日本留学につながればと願っています。

(国際オフィス 塩井実香)



授業風景



ゆめタウンでの学外実習

10月期新入外国人留学生ガイダンス

平成25年10月5日(土)、10月期の新入外国人留学生ガイダンスを実施し、40名近くの留学生と、サポーター、チューターが参加しました。ガイダンス前半では、高松北署から4名の警察の方をお招きし、「日本の法令遵守について」のお話やデモンストレーションをしていただきました。その後、日本語と英語のグループに分かれ、「生活ガイダンス」を実施、日本における生活上の注意点を確認しました。ガイダンス終了後、「新入留学生を囲んでの情報交換会」を附属高松小学校ランチルームにて行い、和やかな歓迎パーティーの中で、留学生たちは地域の方や本学学生と交流していました。

(国際オフィス 高水 徹)



ガイダンスの様子



歓迎パーティーの様子

日本語研修コース及び短期日本語プログラムの実施

平成25年度後期、インターナショナルオフィス留学生センターでは、日本語研修コースに2名、短期日本語プログラムに3名の学生を受入れ、それぞれのプログラムを実施しました。平成26年2月17日(月)には、両プログラムの合同修了式を実施し、学生たちは学習の成果を発表しました。これらの学生のスピーチや作文については、「留学生の声」をご参照ください。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)

平成25年度第2回外国人留学生課外教育行事

平成26年2月24日(月)、日帰りの課外教育行事を実施しました。今回の行き先は徳島県で、(株)河野メリクロン、脇町(うだつの町並み)、藍の館を順に回りました。

(株)河野メリクロンでは、あんみつ館、お蘭見広場で様々な蘭の花や関連製品を見学しました。今回特に時間をとったのが、うだつの町並みの見学でした。ガイドさんの先導に従って、歴史的町並みを見ながら、様々な「うだつ」と時代による変化などを学びました。藍の館では、学生たちが藍染めに挑戦して、記念に持ち帰りました。近県について学習するよい機会となりました。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



説明を聞きながらうだつを見る学生たち



脇町にて

グローバルリーダー育成事業ディスカッション交流会

平成26年1月24日(金)に幸町キャンパス研究交流棟5階研究者交流スペースで、内閣府青年国際交流事業グローバルリーダー育成事業ディスカッション交流会が開催されました。この事業は日本の青年と世界8カ国の青年が日本国内での船上・陸上研修を行い、ディスカッションやセミナー等で交流を行うものです。

本学でのディスカッション交流会には、バーレーンとフィジーの2カ国からそれぞれ9名ずつ計18名が参加しました。本学並びに香川県、高松市からは計20名が参加しました。参加者は5つのテーマに分かれ、それぞれの文化や習慣、考え方等について活発に議論を行いました。

この交流会を機に、国際的視野を広め、国際交流や国際協調への意識が益々深まることが期待されます。

(国際グループ 福家徹也)



バーレーン・フィジー両国の青年たちと



ディスカッションの様子

外国人留学生への就職支援

今年度の本学における就職支援は、主に中小企業庁・全国中小企業団体中央会の「地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業」として実施しています。

平成25年11月1日(金)には、「就職活動準備セミナー」として、内定した先輩の体験談や、教育学部加藤教授による「日本文化基礎講座」を実施しました。12月23日(月)には、「外国人留学生向け就職フェア(大阪)」に参加し、12月25日(水)の「就職活動支援セミナー」では、自己分析の方法を学び、実践的な面接トレーニングを受けました。平成26年1月25日(月)の「企業合同研究セミナー」では、四国内企業の説明及び企業の方との懇談、2月14日(金)には長峰製作所(株)における企業見学を行いました。

また、上記の枠組みとは別途、「百十四銀行留学生就職セミナー」が2月17日(月)に実施され、本学及び高松大学の留学生が30名近く参加しました。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



セミナーでの姿勢の実習



百十四銀行セミナー



日本文化基礎講座の様子

香川大学インターナショナルウィーク

平成25年11月25日(月)からの1週間を香川大学インターナショナルウィークとして、様々なイベントを実施しました。今年で2回目となります。インターナショナルオフィスとしては、25日(月)にはアラブ首長国連邦のザイド大学ドバイ校教養学部助教のリマ・サバン氏による講演会「ドバイの大学生とドバイから見た日本」、27日(水)には海外留学フェアを実施した他、各学部においても関連行事として留学説明会等を実施しました。



リマ・サバン氏による講演



海外留学フェア

海外留学フェアでは、帰国学生による報告や海外留学プログラムの紹介が行われ、多方面からの留学に関する情報が提供されました。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)

平成25年度学長主催外国人留学生交歓会

外国人留学生、教職員及びチューター等日本人学生や、地域や国際交流団体の方々との親睦を深めるため、学長主催による外国人留学生交歓会を平成25年11月29日(金)にホテルパールガーデンにおいて開催し、約260名が参加しました。

交歓会は、工学研究科1年 Tamzeed Al Alam (タムジード アル アラム)さん、経済学部特別聴講学生 忻以庭(キン イテイ)さんの司会進行のもと、長尾学長の挨拶に続き、留学生のための支援活動を行ってくださる地域団体の方々へ、学長から感謝状及び記念品が贈呈され、留学生代表の経済学部3年 斉鋭(サイ エイ)さんの挨拶、板野オフィス長による乾杯の音頭で開始されました。また、タイからの留学生によるダンス、インドネシアからの留学生による歌とダンスが披露され、大いに盛り上がり、最後にロン留学生センター長による挨拶で交歓会を締めくくりました。

(国際グループ 浅野文恵)



学生と談笑する長尾学長



感謝状及び記念品贈呈



インドネシア学生によるダンス

平成25年度第2回危機管理セミナー及び インターナショナルオフィスFD・SDワークショップ

「海外渡航者・教職員向け 危機管理セミナー」

平成26年2月19日(水)、インターナショナルオフィス主催「危機管理セミナー」(学生対象(午前))と「FD・SDワークショップ」(教職員対象(午後))を開催しました。

危機管理セミナーは、ジェイアイ傷害火災保険(株)リスクソリューション担当部長城戸克斉氏を講師としてお招きしました。インターナショナルオフィスのロン副オフィス長の挨拶に続いて、城戸様には、海外研修プログラムを担当する教職員及び本学の危機管理を担当する職員を対象として、引率中、または日本待機中に海外で危機事象が発生した場合の行動や心構えなどについてご説明いただきました。午後の部では、(株)保健同人社カウンセリング担当小谷紗智子氏をお招きし、留学中の学生のメンタルヘルスにどう対応すべきかなどについてご説明いただきました。



危機管理セミナーの様子

留学中の学生のメンタルヘルスにどう対応すべきかなどについてご説明いただきました。

(国際グループ 浅野文恵)

平成26年2～3月帰国予定の外国人留学生及びチューター等意見交換・反省会

平成26年2月17日(月)、帰国予定の外国人留学生をはじめ、ICES（香川大学異文化交流会）の日本人学生やチューター、地域の国際交流団体の方々など約60名が集まり意見交換・反省会を開催しました。

当日は、ロン留学生センター長挨拶の後、留学生代表が乾杯の挨拶をし、会がスタートしました。しばらく懇談した後、ICESがビンゴゲームを行ったり、留学生が授業で習った日本の歌「故郷」をデュエットで披露、続いて、帰国予定の留学生が香川大学で過ごした思い出や将来の進路などを話し、最後は記念撮影をして、たくさんの笑い声の中閉会となりました。



意見交換・反省会の様子

帰国する留学生には、本学や香川での思い出を忘れずに、温かく迎えてくれる地域の国際交流団体の方々や共に学んだ仲間たちと、今後も変わらない交流を続けていってほしいものです。

(国際グループ 池田紗和子)

平成26年度海外留学支援制度採択

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)の平成26年度海外留学支援制度に本学から12プログラム、5,030万円分の奨学金が採択されました。200名あまりのプログラム参加者に対し、月額6～10万円が支給されます。

平成26年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」採択

この度、農学研究科の「日本の食の安全 高度人材育成 留学生特別プログラム」が「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択されました。これは、国公私立大学大学院が実施する国際的に魅力のある留学生受入れプログラムを文部科学省が選定し、優先的に国費外国人留学生の配置を行うものです。

事業期間は平成26年10月から5カ年となっており、東南アジア、中国、北米、南米の優秀な学生が、毎年5名ずつ、農学研究科日本の食の安全留学生特別コースに入学、食の安全を実践的に学び、将来、日本と海外事業所との架け橋になる幹部候補生を目指します。

地域との交流活動

瀬戸内国際芸術祭2013

平成25年度前期より、インターナショナルオフィスとしても瀬戸内国際芸術祭に関わってきましたが、後期には、9月28日(土)に「県内高校生と香川大学留学生とのボランティア活動及び交流会」を栗島にて実施しました。午前中は、城の山登山道でのボランティア作業の後、山頂で留学生によるクイズに高校生が解答しました。下山後は、昼食交流会でバーベキューを楽しみながら交流し、プログラム最後には伝統的な栗島太鼓・獅子舞を体験しました。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



城の山山頂にて



太鼓・獅子舞体験

香川県留学生等国際交流連絡協議会シンポジウム

平成26年1月17日(金)、サンポートホール高松にて、シンポジウム「留学生と地域でつくる国際交流」を実施しました。本シンポジウムは、『公益財団法人中島記念国際交流財団助成』(独)日本学生支援機構実施事業で、主催は香川県留学生等国際交流連絡協議会であり、インターナショナルオフィスにとっては本学授業「地域活動」内の1プロジェクトである「本島・栗島国際交流プロジェクト」や、それを含め日本人学生も参加した「島プロジェクト」の総括として位置づけられます。

来賓として瀬戸芸実行委員会事務局次長の内田氏、基調講演に瀬戸芸総合ディレクターの北川氏、パネリストには北川氏に加え建築家の齋藤氏、三豊市政策部の豊島氏をお招きし、本学教育学部青山教授、その他四国学院大学や本学の多くの学生の協力を得て、事業概要、活動報告、パネルディスカッションを実施することができました。

島・地域・日本を知る契機としての瀬戸芸の意義が再確認されたほか、地元のニーズや若者への期待についても話し合われ、北川氏の学生の個の力を期待するコメントで締めくくられました。この場をお借りして多数の皆様のご協力に感謝いたします。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



パネルディスカッション

教育学部附属高松小学校と国際交流

本学の外国人留学生が教育学部附属高松小学校を訪問し、交流活動を行いました。

平成25年9月13日(金)には4名の学生が3年生と、平成25年11月12日(火)には10名の留学生が4年生と、いずれもバスで校外学習に出かけ簡単な英語で交流しました。また、平成26年2月7日(金)には、5名の学生が初等教育研究発表会で6年生の英語授業に参加しました。授業後の討議会において、これらの留学生と交流しながら学習を行う授業は非常に



初等教育研究発表会の授業の様子

価値のある提案授業であり、附属高松小学校ならではの連携を継続すべきとの評価がなされました。今後も交流を継続していきたいと考えています。

(国際グループ 浅野文恵)

第7回留学生お正月会

平成26年1月11日(土)に、香川大学留学生会館にて第7回留学生お正月会を実施しました。主催はKUFSA(香川大学留学生会)とICES(香川大学異文化交流会)でした。高松東ライオンズクラブと仏生山国際交流会がご支援やご協力をしてくださいました。参加者はおよそ100名でした。活動内容は30キロのもち米で餅つきをして、餡入りの大福やさめき独特の餡餅雑煮、それからもち米カレーを作りました。

(インターナショナルオフィス ロン・リム)



餅つき



料理をいただく学生たち

留学生の声

●秋期日本語研修コース修了生(国費留学生)



にほんの りゅうがくは わたしの ゆめでしたから わたしは MEXTしょうがくきんに ありがとうございますと いいます。

にほんごの べんきょうは とても たいへんでした。まいにち たくさん あたらしい ことばと ぶんぽうを おぼえなければなりませんでしたが おもしろかったです。

CHANTAMALY AMMALA (CHANTAMALY AMMALA (チャンタマリー アマラ) ラオス

にほんごの べんきょうの ふねの たびの なかで おおきい なみや つよい かぜが ありました。それは むずかしい ことばと はつおんや スペルの まちがい。

せんせいは せんちょうだと おもいます。ふねを コントロールするために とても すばらしい しごとを しました。わたしたちは しょうがいを さけることができました。

LIWA, IVY SANTIAGO (リワ アイビー サンチャゴ) フィリピン



●短期(6ヶ月)日本語プログラム修了生(大邱大学からの科目等履修生)



香川大学は一度も行ったことがない四国に位置しており、この点で興味ができてここに来ることになった。今年日本で経験したすべてのことは一生忘れられないほどの美しい思い出になった。この貴重な経験を持って、韓国に帰って私の将来の夢に向けて一生懸命勉強したい。

金 連秀 (キム ヨンス)

いろいろな国の人と会って人の違いについてもう一度考えることができた。人と人は会って話して二人が違いを交流・共有してからこそ二人の関係がつながるのだと思う。

こうやってそれぞれの考え方や生き方を学んだ。そして、暮し方や自分の考えを整理することができた。

金 炫志 (キム ヒョンジ)



ここで出会った留学生達は目指していることのため海外で一生懸命勉強している。それを思い出して私も就職で成功するため頑張るつもりだ。今まで怠けて遊んでばかりだった自分に日本の留学生活はこれからも力の限り生きる勇気をくれた。

朴 志旋 (パク ジソン)

着任のご挨拶

皆さん、こんにちは！

独立行政法人国際協力機構（JICA）より香川大学に出向第一号職員として、平成26年1月6日にインターナショナルオフィスに着任いたしました熊谷信広です。香川大学が目指す「グローバル人材育成」に貢献するため、今迄68カ国においてJICAの業務をはじめ総合商社及び他大学勤務で、自ら実施した国際開発援助での協力経験を学生に還元していきたいと思っております。とともに、一人でも多くの香川大学生がJICAの制度を活用し、世界に貢献する人材として飛翔する機会を提供していきたいと決意しております。



JICAが実施するODA（政府開発援助）の海外現場の経験から言えることは、大学の「知」は発展途上国の人びとの繁栄と発展を展開する上で貴重な資源だということです。その資源である「知識」を、開発現場で如何に活用できる資源にするか。それは、「知識」を「知恵」に昇華し、適応させていくことが重要なポイントだと考えています。それを具現化する人材の育成は、世界に通用する知識とコミュニケーションと確固たる哲学が必要であります。何のための「知」であるか、それは「人間のため」の学問の展開だと考えています。

香川大学からは、いままで85名がJICAボランティアとして40カ国の発展途上国の国造りの活動に参加した実績があります。

これまでの香川大学の世界76の大学交流の海外展開の協力とともに、今後ますます世界に貢献する香川大学の一員として、少しでもお役に立てるよう皆様と協力して全力で業務に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

（インターナショナルオフィス 熊谷信広）

インターナショナルオフィスからのお知らせ

- 全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」（前期・木5、タイでの研修）と「Study Abroad (Global English at UC/UWA)」（後期・水3、語学研修）を開講します。
- 「香川大学生のための海外留学・研修ハンドブック2014-2015」を作成しました。研究交流棟4階国際グループまたはインターナショナルオフィスのウェブページから。
- 留学・海外研修・国際貢献の説明会を平成26年4月16日（水）13:00から教育学部415教室にて開催します。国際貢献は23日（水）にも再度開催します。

香川大学
インターナショナルオフィスニュース
第10号 2014(平成26年).3.31

香川大学インターナショナルオフィス
〒760-8521 高松市幸町1-1
Tel : 087-832-1194 Fax : 087-832-1192
E-mail : soryugase@jim.ao.kagawa-u.ac.jp
URL : <http://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/>
留学生センターfacebook
URL : <http://www.facebook.com/KUISC>